



電子メールアドレス : o.fukusi@okinawa-j.jp



第 50 号

編集・発行

社会福祉法人

沖縄県社会福祉事業団

〒903-0804 那覇市首里石嶺町4丁目373番地1

TEL 098-884-3173 (代)

FAX 098-882-5688

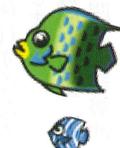
ホームページ : <http://www.okinawa-j.jp/>



遠遊会

4月16日(水)に名護厚生園は、利用者27名、スタッフ17名、ボランティア9名の合計53名で、本部町にある「美ら海水族館」へ行きました。さすがは世界第2位の大きな水族館で魚の種類が多い。信じられないくらい大きな魚、綺麗な魚の大群、美味しそうな魚など、一喜一憂しながらの鑑賞会でした。利用者の笑顔に感動し、「絶対来年も来ようね」と約束し合い、後ろ髪を引かれる思いで帰ってきた私達でした。

名護厚生園 訪問介護サービス提供責任者 荻堂 盛路



常務理事就任あいさつ



常務理事 比嘉 成和

平成二十年四月に常務理事に就任いたしました。

事業団の経営は、「経営計画」のスタートの重要な年となっており、目標達成へ強い決意が求められ、責任を痛感しております。

計画では、「利用者本位のサービスの質の向上」、「施設の機能強化」と「デイサービスなどの「新規事業の展開」、「老朽化施設の改築」など施設の運営の効率化と活性化を推進することとしております。

事業団が自主的・自立的経営の達成を図り、安定的・継続的な法人経営を行っていくため、「経営計画の目標の達成」の取り組みを通じて、事業団の組織力、事業活動の質の向上と人材の育成確保に結びつけ、利用者の満足度と地域が「あこがれる」事業団ブランドを確立していく重要な時期と考えております。

つきましては、事業団の役員、関係者の理解とご協力をお願い申し上げます。就任のあいさつとします。

事務局長就任あいさつ



事務局長 金城 敏彦

この四月に事務局長に就任しました金城です。「利用者本位のサービスの質の向上と経営基盤の強化を図るとともに、広く地域に貢献し、地域の人々に信頼され愛される施設(法人)の確立」を目的し、経営計画に基づく改革を進めている沖縄県社会福祉事業団の事務局長として、改めて果たすべき責任の重さ使命感の大きさに、身の引き締まる思いであります。

いま、少子・高齢化に伴う福祉需要の増大、ニーズの多様化に伴い社会福祉制度が急速に施設から在宅へと地域生活支援に移行しております。この変化は、新たな時代における福祉経営を「施設管理」から「法人経営」へ、「規制」と「助成」から「自立・自律」と「責任」へと方向性を変えていかなければなりません。

事業団が福祉変革にふさわしい社会福祉法人として転換できるか最大の時期であると思います。この試練を、全職員が一丸となって取り組みれば必ず乗り越えられるものと確信しております。

平成二十年度は「五カ年経営計画」のスタートの年として①サービスの質の向上②法人の社会機能の強化③財務基盤の安定化④施設整備⑤人事管理⑥法人の組織強化を経営目標に取り組みます。

地域から愛され、信頼され、利用者から選ばれる施設として、誠心誠意、懸命に取り組んでまいりますので、一層のご協力をお願いいたします。

【平成二十年度 事業計画】

運営方針

当社会福祉事業団は、沖縄県との間で平成二十年三月に県有地について、当面五年間は有償貸与とする協定書を締結しました。それにより、平成二十年度は実質的に自主経営スタートの年となります。

民間社会福祉法人として「利用者本位のサービスの質の向上」「経営基盤の強化と経営の効率化」を基本目標に自主性が発揮できる経営が求められています。

平成十八年四月からの「障害者自立支援法」施行に伴う、障害者(児)施設の新体系移行への取り組み、介護保険制度における「地域密着型サービス」を目指すための、新規事業への検討等を更に進め、収入の安定確保に努めていかなければなりません。

健全な施設経営に向け不断の努力を今後とも継続していくことが重要との認識に立ち、平成二十年度も各種事業を推進していきま

重点事項

一 「沖縄県社会福祉事業団経営計画」の推進
利用者本位のサービスの質の向上と経営基盤の強化を目指し、計画を着実に推進します。

二 利用者本位の福祉サービスの充実
ア、利用者個々の福祉ニーズに対応した個別支援計画を策定し、適切なサービスを提供するとともに、利用者の自己決定・自己選択を尊重した生活の質及び快適性の向上に努めます。

イ、利用者や家族又は来訪者の意見を積極的に受け止め、利用者のニーズに対応した適切なサービスの確保を図り、満足度の向上に努めます。

ウ、福祉サービスの提供に当たっては、厚生労働省が定めた「障害者・児施設のサービス共通評価基準」及び当事業団が策定したマニュアル等を活用し、自ら

サービスの内容について点検・自己評価し、その改善に努めます。

エ、業務プロセスの改善によってサービスの質の向上を図ることにより、統一して継続的に利用者満足度の向上を図るために国際標準規格ISO9001の認証取得について検討します。

三 経営基盤の強化

民間社会福祉法人として、事業を効率かつ適正に実施するため、理事会、評議員会、経営対策監会議を経営管理に活用します。

四 施設経営の効率化

施設利用者のニーズの把握に努め、稼働率等の経営指標を設定し、四半期毎に実績会議を開催し、確実な収入の確保に努めます。

五 職員の資質の向上

職員の資質及び援助技術の向上を図るため、職員研修実施要綱に基づき、体系的な研修を実施するとともに、福祉人材研修センターなど他機関の実施する研修への参加を積極的に推進します。

六 地域に密着した新規事業の検討

前年度は四厚生園において居宅介護支援事業所と訪問介護事業所を立ち上げましたが、引き続き新たな在宅事業への取り組みを検討します。

特に八重山厚生園、名護厚生園については、デイサービス事業を具体的に検討します。

七 障害者自立支援法施行に伴う新体系への移行検討

障害者(児)施設においては、平成二十四年三月末までに新体系へ移行するための取り組みを引き続き検討します。

八 広報活動の推進及び関係機関と連携

事業団ホームページや機関誌「紺碧沖繩」また各施設発行の広報誌で積極的な広報活動を推進します。

4 厚生園リスクコンサルティングを終えて



平成十九年十二月から平成二十年五月に亘り、当事業団の四厚生園において、あいおい損保の山田滋氏によるリスクコンサルティングを実施しました。各施設においてそれぞれ三日間におよぶ事故防止体制の診断と助言が行われました。

実際に利用者や職員の動きを見ながら事故防止体制の診断をされ、全職員を対象に現場に沿った研修及び講義を行い、介護主任を中心に一年間で発生した事故について再分析を行いました。職員自ら考え分析することで、日頃の業務や介護技術に対する気づきを得、事故の根本的な原因を把握すると共に多角的な事故防止対策の必要性を改

めて認識することができました。各厚生園に共通するご指摘をいただいたのは、「集団ケア」と「寝かせきり」にしていることが事故を招きケアの質を落としている、ということでした。専門家による客観的な診断と助言をいただき、各厚生園それぞれ具体的に取り組む課題や改善すべき事項が明瞭になってきたのではないかと感じます。

今回のリスクコンサルティングを通して気づいた点を施設全体で一つつ取り組み、よりよいサービスの提供や職員の意識と介護技術の向上に向かって考える布石となりました。

(記事・事務局企画課 平良 里子)

介護技術研修の報告

介護の理念、介護技術の基礎を学び、利用者の支援及び施設のサービスの向上を図ることを目的に、平成二十年六月二十三日からの二日間、講師に「生活とリハビリ研究所」の下山名月氏をお招きし、介護技術研修を行いました。受講者は、当事業団の全介護主任を必須に介護員他合わせて二十九人の参加となりました。

「介護とは何か」という問いから始まり、人間の身体のしくみや人間らしさということも含めて講義がありました。実技では下山先生の講義を聞きながら、参加者全員が実際にロールプレイを行いました。その中で、利用者の視点に改めて立ち戻り、その感覚や気持ちを感じてきたのではないかと思います。

研修後の受講者からの感想に「これまで当たり前だと思っていた介護方法には利用者には不快感を与えていたと気づいた」「介護は人の動きにヒントがあるということが分かった」「力任せの介護ではなく、利用者の力を活かすことで介護される側もする側も負担が減るということがわかった」などがありました。



いずれも、これまでの介護方法に新たな視点を設け、利用者や介護者双方が安心できる介護技術の方法を学ぶことができたのではないかと思います。下山先生の笑顔と熱意溢れる研修で気持ちを新たに、現場で「毎日が実践！ 毎日が技術の向上！」の心意気で楽しく業務に携わっていききたいと思えます。

(記事・事務局企画課 平良 里子)

施設長就任あいさつ



知的障害者更生施設 北嶺学園
園長 山里 将善

平成二十年四月一日、二年ぶりに事業団職員として復帰し北嶺学園長として任じられ早二ヶ月経過したが、「利用者の安心・安全」はもとより、自立支援法に基づく「新体系移行」と課題山積の現状を考えるにつれその重責をひしひしと感じる昨今です。

支援費制度、障害者自立支援法施行と福祉を取り巻く環境が激変する中、北嶺学園も生き残りを掛け課題解決に全力を傾注しなければならぬと意を新たにしております。

今後施設経営も益々厳しくなると予想されますが、常に利用者やご家族の高い満足度が得られる支援を命題に職員共々邁進しているところであります。皆様の更なるご支援とご協力をお願い致します。



養護 特別養護老人ホーム 八重山厚生園
園長 根間 武男

「福祉は人なり、人は福祉なり」先輩から教わった言葉である。施設サービスは、人間の尊厳を守り、基本的人権を保守しながら、人が人をケアすることである。従って、ここには経験、知識はもとより、豊かな人間性が求められる。

施設は、質の高いサービスを目標とする。提供者は人、人が提供するサービスがサービスの質そのものであることを考えたとき、人の育成、確保は重要である。

「今、施設現場に何が求められているか」認識を新たに、プレッシャーに押し潰されないよう頑張っていきたい。ご指導お願いします。



児童養護 知的障害児施設 知的障害者更生施設
園長 仲間 貞教

四月一日付けで、漲水・あけぼの学園長として就任しました。非力ではありますが、職員一体となつて施設利用者の生活と福祉の向上のため努力してまいりますので、よろしくお願ひ致します。

さて、当事業団が自主経営に移行してから、三年目に入りました。その事業展開の中で、私たち漲水・あけぼの学園の施設が、平成二十二年度を目前に全面改築するとの事業団方針が示されました。

自立支援法完全実施に向けての対応や、知的障害児部門の長期にわたる定数割れ等、様々な課題はありますが、入所児童・利用者が安心して生活できる新しい施設づくりに邁進していきたい。



婦人保護施設 うるま婦人寮
寮長 譜久山 路子

当寮では、生活指導員として四年間、事務員として二年間、管理課長として三年勤務し、今年四月からは寮長職を命ぜられる事となりました。これには、私自身が一番驚き、職責の重みや漠然とした不安で一杯でした。

しかし、これも巡り合わせだったのだと最近では、思えるようになりました。現在、県が当寮の在り方を検討中です。今年後半に検討結果が出ます。全国的にも婦人保護事業を取り巻く状況は厳しいですが、職員一同、利用者の方々の問題解決に取り組んでいきます。

今後ともご指導・ご協力をよろしくお願ひ致します。

施設長リレー エッセー



重症心身障害児施設 沖繩療育園
園長 知名 保

柔道は師

「入ってくる一年生の面倒は、一体誰が見るって言うんだ？」とクラブを辞めていく同期生に問いかけたのは高校の柔道場だった。

「そうは言ってもなあ、受験勉強は二年生から始めないと間に合わないって言うぜ」

「分かったよ、俺が面倒を見てやる」と大見得を切った時から、私の趣味？

柔道との二人三脚が始まった。「じゃ、知名君頑張つてね」と言われた時の不安と重圧、もう後へは引けない。これで大学入試に落ちようものなら彼らに笑われる。少なくとも毎日のクラブ活動で二時間は潰れる。更にくたびれてしまふので、一ないし二時間はこれまた勉強できない。睡眠を減らし短時間集中に努め、幸運にも大学に入れた。

柔道部を選んだきっかけは、小さいとき柔道の映画を観たからだ。野球やサッカーをテレビで中継していたら、多分そのどちらかを選んでいただろう。百二十年前に嘉納治五郎という人が創った。持つべき心がけとして「精力善用」「自他共栄」だと言うのは後日分かったことだ。

実際始めてみると面白さと苦しさがある。

苦しい思いをした分、面白さも増す。荒っぽい競技のように見えるが、絞め技にしても関節技にしても相手に降参するかどうかを訊くゆとりを与え、紳士の思い遣りがある。いきなり失神させたり脱臼させたりはしない、とは言うものの、熱狂的な指導者は「決して降参するな」などと言うものだから、危険きわまりない昨今である。

現在、少年柔道に関わっているが先ず教えることは、挨拶、父母への感謝の気持ちを持つこと、その次に体を鍛えて柔道に強くなるう、である。更に相手に怪我をさせない、自分も怪我をしないことである。少年柔道の指導に携わってからもう三十年が過ぎた。

土日が潰れるボランティアという多少おごった意識を持つていたが、十年ほど前からそうではないと思うようになった。

道場は高齢の私の健康を支えてくれる場であり、柔道に時間を費やしたため家庭不和も生じたが、今では柔道に感謝しその恩返しのために、老骨に鞭打って少年たちに投げ飛ばされている。今日この頃である。

ニューフェイス紹介



重症心身障害児施設 沖縄療育園
事務員 知花 あさみ

縁あって、当事業団に平成十六年四月、嘱託員として勤務。あれから四年の月日が流れ今年四月、職員として採用して頂き飲みと同時に、様々な不安を抱きながらスタートした今年度。三ヶ月が過ぎようとした今、ようやく気持ちが落ち着いてきたように思います。



救護施設 いしみね救護園
介護員 宮城 政幸

今年四月は、私にとつて公私共に大きな変化のある月でした。職員採用と子ども(双子)の誕生とめでたいことが続きました。

好きなバレーボールは封印し、その分子育てを楽しみたいと思っています。今度機会があれば、事業団職員の方々とバレーボールチームを結成して活動できればと考えています。

いしみね救護園では、利用者の方々が心地よい生活ができるよう努めています。私自身、まだ不慣れな部分が多いことから利用者の方々の声をしっかりと感じて受け止め、精一杯できるだけのことを支援していきたいと思っています。



身体障害者療護施設 都屋の里
看護師 渡慶次 忍

長年主に救急関係の仕事ばかりで疲れ、少し休養しようとする主婦をしていました。趣味であるダンス・乗馬・琉舞もやる気がなく、やっぱり仕事をしたくて自宅に近い都屋の里に嘱託で就職し、四月に本採用になりました。

当初は、病院勤務しか経験のない私に、施設でつとまるか不安でしたが、忙しく毎日の業務をこなし、残業が多くても何とか通い続けている自分に感心しています。へこたれそうになっても、職場が楽しく、利用者の方たちへの思いもあつたので続いています。毎日楽しい仲間と共に「無理」「無駄」「ムラ」を省いた業務改善に努め、ゆとりのある仕事が出来れば、目配り気配りが充実したよりよい生活環境を提供でき、利用者の健康も維持できると思っています。



養護・特養老人ホーム 名護厚生園
生活相談員兼 介護支援専門員 比嘉 美由紀

今年四月より、名護厚生園に採用され数ヶ月が過ぎました。毎日が目まぐるしく過ぎ、今まで経験のない業種で戸惑い、緊張しながらの勤務でしたが、他の職員の皆さんに協力していただき、気持ちに余裕を持てるようになってきました。

いつも利用者の立場に立ったケアを心がけていますが、これからもその気持ちを忘れずに、利用者皆さん、ご家族の方が安心して満足していただけるよう頑張っていきますのでよろしくお願ひします。



養護・特養老人ホーム 八重山厚生園
介護員 佐藤 等

茨城県出身の四十二歳。海をこよなく愛する男です。石垣島に暮らし始めて五年目。八重山厚生園に働き始めてからも五年目です。

八重山厚生園で働き始めた当時は、慣れない作業や利用者さんとのコミュニケーション等に戸惑う日々でした。諸先輩方から助けて頂き今日までこれでした。

今年の四月より正職員として働ける事となり、気持ちを新たに仕事へ取り組んでいます。これからも自己の知識・技術を向上させ、利用者・職員の皆様方に少しでも貢献できるように努力していきたいと思っています。



養護・特養老人ホーム 具志川厚生園
生活相談員 池原 英高

具志川厚生園に勤めて早数ヶ月が過ぎました。老人ホームで働いた経験のない私ですが、仲間を支えられながら生活相談員として忙しくも楽しい日々を送っています。

私の主な業務は、利用者の生活支援に関する事や金銭管理などですが、忙しさに振り回され、周りの職員に迷惑をかけることも多々あり、社会人としてはダメだと反省する毎日です。

まずは欲張ることなく、目の前の事を一つ一つやり遂げながら、利用者やご家族の要望や期待に少しでも多く応えられるよう頑張っていきたいです。



養護・特養老人ホーム 宮古厚生園
介護員 久志 多美子

上司・先輩・同僚に恵まれ、利用者との触れ合いの中で、毎日楽しく仕事をする事ができ、本当に感謝しています。

「常に相手の立場になって考える事を念頭に、利用者が安心・安全な生活が送れるよう、介護職員としてサポートができればと思っています。」

新採用職員研修の中で、理事長より「親しけれども慣れず」という言葉を頂きました。施設の職員として、常に向上心を持って、施設のプロフェッショナルになれるよう努力していきます。これからも、優しさと思い遣いを心がけ、日々頑張っていきたいと思っています。



児童養護施設 漲水学園
児童指導員 兼島 章人

漲水学園での嘱託員から含めて三年目の今年、大好きな職場で採用になったことをとても嬉しく感謝の気持ちで一杯です。

漲水学園の睡寮では、現在二十一名の子どもたちが入所しており、子どもたちと接する中で、日々学ぶことがたくさんあり、悪戦苦闘しながら充実した毎日を過ごしています。

仕事の面では、まだまだ分からないことがあり、迷惑をかけることも多々ありますが、先輩方からたくさん学び、日々成長していけるように頑張っていきたいと思っています。



事務局通信

新採用職員紹介

▼事務局 (経営対策監) 下地常雄

▼沖繩療育園 (医療技監) 平良健康

(事務員) 知花あさみ

(看護師) 比嘉洋子・仲村史子・町田侑子

(第II種介護員) 我那覇安子・宇室直秀

(第II種介護員) 奥松輝子・柳田優枝

▼漲水学園 (児童指導員) 兼島章人

▼北嶺学園 (園長) 山里将善

(看護師) 與那城知加子

▼都屋の里 (看護師) 渡慶次忍・砂川亜佐子

▼よみたん救護園 (園長) 大湾朝信(再雇用)

▼いしみな救護園 (看護師) 宮里可奈子

(第II種介護員) 宮城政幸

▼名護厚生園 (生活相談員兼介護支援専門員) 比嘉美由紀

(看護師) 新城せいら

(准看護師) 中平祥子

(第II種介護員) 崎原千春・鉢嶺ちか・古堅豊

▼具志川厚生園 (介護支援専門員) 眞榮城和人

(生活相談員) 池原英高

(看護師) 吉野泉美

(第II種介護員) 大見幸成・金城奈美・宮里憲一

(第II種介護員) 中本浩哉・上原栄・大浜佳子

▼宮古厚生園 (第II種介護員) 久志多美子・砂川明美

(看護師) 山本千寿子

▼八重山厚生園 (看護師) 前新城なをみ

(第II種介護員) 佐藤等・白保波枝・金城浩子

理事・評議員新役員紹介

第二任期役員(任期平成二十年七月十一日~平成二十一年七月十日)

理事長 呉屋 清徳(沖繩県社会福祉協議会副会長)

常務理事 比嘉 成和(沖繩県福祉保健部参事監)

理事 照屋 義実(照正組 代表取締役)

理事 照屋 寛(沖繩県身体障害者福祉協会常務理事)

理事 幸地 啓子(税理士、社会福祉経営研究会代表取締役)

理事 上原 豊充(沖繩県社会保険労務士会会長)

理事 上間 亨(名護厚生園長)

監事 倉持 輝幸(倉持公認会計士事務所長)

監事 森山 順子(前沖繩県福祉保健部監査指導班副参事)

第三期評議員(任期平成二十年六月十五日~平成二十一年六月十四日)

比嘉 成和(沖繩県福祉保健部参事監)

比嘉 佑一郎(沖繩県社会福祉協議会常務理事)

神里 博武(前沖繩国際大学総合文化学部教授)

上地 武昭(沖繩大学人文学部福祉文化学科教授)

花城 清善(沖繩県老人クラブ連合会会長)

田中 寛(沖繩県手をつなぐ親の会会長)

宮内 泰雄(沖繩県民生・児童委員協議会会長)

宮内 清子(沖繩県母子寡婦福祉連合会会長)

松島 寛行(三協電気 代表取締役)

知念 良和(沖繩海邦銀行 常務取締役)

宮城 朝義(具志川厚生園家族会)

宮里 尚安(沖繩療育園父母の会)

新里 清吉(北嶺学園家族会)

上間 亨(名護厚生園長)

小渡利枝子(都屋の里園長)

平成二十年「紺碧沖繩」刊行委員

編集委員 井口 智(事務局)

委員長 平良 里子(事務局)

副委員長 宮城 貴子(北嶺学園)

編集委員 宮城 聖子(都屋の里)

町田 宗広(いしみな救護園)

中本 信次(名護厚生園)

柳田 優枝(沖繩療育園)

仲間 勝之(漲水学園)

上原 周作(あけぼの学園)

長嶺 輝也(よみたん救護園)

小橋川博康(うるま婦人寮)

池原 英高(具志川厚生園)

洲鎌由美子(宮古厚生園)

奥間 安洋(八重山厚生園)

平成19年度事業及び決算報告

一、総括

平成十九年度は当社会福祉事業団にとつては自主経営の二年目にあたり、「利用者本位のサービスの質の向上」「経営基盤の強化と経営の効率化」「職員の資質の向上と意識改革」及び「地域に密着した新規事業の開始」を基本目標に取り組みました。

二、具体的な展開

①経営計画の策定

信頼性の高い経営を実践するため経営目標を明確にした平成二十年から二十四年度までの五ヶ年を計画期間とする「沖繩県社会福祉事業団経営計画」を策定しました。

②利用者本位の福祉サービスの充実

投書箱の活用率が低かったため、新たに利用者と家族を対象にした施設利用者満足度調査を実施しました。

③経営基盤の強化

ア、法人経営 経営計画策定にあたっては、経営コンサルタントからの経営計画専門評価指導に関する報告をもとに、理事及び評議員と意見交換会を行いました。

イ、職員構成の見直し

介護職員を増員し従来の三対一介護から全国並の二・四対一介護体制としました。

知的障害者施設では介助員を配置し、沖繩療育園では利用者の重度化に対応するため看護師の増員を図りました。また、四厚生園では栄養ケアマネジメント体制を実施するため、栄養士を増員しました。

ウ、リスクマネジメントの実践

各厚生園においてはリスクコンサルタントによる事故防止体制の診断を受けて、リスクの改善に取り組みました。

工、在宅福祉事業の充実

名護厚生園及び具志川厚生園の短期入所事業において当事業の専任職員配置を行い、稼働率の向上を図りました。

④施設経営の効率化

ア、事務事業の効率化 ○OA化の推進として施設間文書の電子化、事業所内情報の共有化やコミュニケーションの効率化を図るため、組織内の情報共有のためのシステムであるグループウェアを構築しました。

イ、共同入札等の実施

経費の節減を図るため次の事を実施しました。(a)調理・清掃・警備業務及び米の共同入札(b)高額な固定資産物品購入については事務局と施設が共同し業者選定(c)施設単位で購入し多品となっていた紙おむつについて品目の統一を検討しました。

ウ、既存施設事業の確実な収入の確保 入所率の向上を図り確実な収入を確保するため、各施設へ「空所理由」と「今後の入所予定及び計画書」の毎月報告を義務化しました。

⑤職員の資質の向上

日頃の活動及び研究成果を発表討論する職員研究発表会と職場単位で組織するQCサークル活動の成果発表会を二年ぶりに開催しました。

⑥地域に密着した新規事業の展開

四厚生園において地域の拠点施設として、指定居宅介護支援事業所と指定訪問介護事業所を開設しました。

⑦障害者自立支援法施行に伴う新体系への移行検討

障害者(児)施設においては平成二十四年三月末までに新体系へ移行するため新規事業策定委員会を開催しました。

平成 19 年度 資金収支計算書

(自)平成19年4月1日 (至)平成20年3月31日

第1号様式

(単位:円)

Table with 4 columns: 勘定科目, 予算, 決算, 差異. Rows include 介護保険収入, 自立支援費等収入, 医療費収入, 措置費収入, 委託料収入, 寄附金収入, 雑収入, 受取利息配当金収入, 経理区分間繰入金収入, 経常収入計(1), 人件費支出, 事務費支出, 事業費支出, 借入金利息支出, 経理区分間繰入金支出, 経常支出計(2), 經常活動資金収支差額(3)=(1)-(2), 施設整備等寄附金収入, 施設整備等収入計(4), 固定資産取得支出, 施設整備等支出計(5), 施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5), 借入金収入(長期), 積立預金取崩収入, その他の収入, 財務活動等収入計(7), 借入金元金償還金支出, 積立預金積立支出, その他の支出, 財務活動等支出計(8), 財務活動等資金収支差額(9)=(7)-(8), 予備費(10), 当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10), 前期末支払資金残高(12), 当期末支払資金残高(11)+(12).

平成 19 年度 事業活動収支計算書

(自)平成19年4月1日 (至)平成20年3月31日

第3号様式

(単位:円)

Table with 4 columns: 勘定科目, 本年度決算, 前年度決算, 増減. Rows include 介護保険収入, 自立支援費等収入, 医療費収入, 措置費収入, 経常経費補助金収入, 委託料収入, 寄附金収入, 雑収入, 国庫補助金等特別積立金取崩額, 事業活動収入計(1), 人件費支出, 事務費支出, 事業費支出, 減価償却費, 引当金繰入, 事業活動支出計(2), 事業活動収支差額(3)=(1)-(2), 受取利息配当金収入, 経理区分間繰入金収入, その他収入, 事業活動外収入計(4), 借入金利息支出, 経理区分間繰入金支出, その他支出, 事業活動外支出計(5), 事業活動外収支差額(6)=(4)-(5), 經常収支差額(7)=(3)+(6), 施設整備等寄附金収入, 特別収入計(8), 固定資産売却損・処分損, 国庫補助金等特別積立金積立額, 特別支出計(9), 特別収支差額(10)=(8)-(9), 当期活動収支差額(11)=(7)+(10), 前期繰越活動収支差額(12), 当期繰越活動収支差額(13)=(11)+(12), 基本金取崩(14), 基本金組入額(15), その他積立金取崩額(16), その他積立金積立額(17), 次期繰越活動収支差額(18)=(13)+(14)+(15)+(16)-(17).

平成19年度 貸借対照表

平成20年3月31日現在

(単位:円)

第5号様式

Table with 4 columns: 科目, 当年度末, 前年度末, 増減. Rows include 流動資産, 現金預金, 未収金, 前払金, 仮払金, 固定資産, 基本財産, 基本財産特定預金, その他固定資産, 建物, 構築物, 機械及び装置, 車輛運搬具, 器具及び備品, 工作物, その他積立預金, 法人運営等積立預金, 全事協退職年金共済預け金, その他の固定資産, 流動負債, 未払金, 預り金, 固定負債, 長期運営資金借入金, 全事協退職年金共済引当金, 負債の部合計, 純資産の部, 基本金, 国庫補助金等特別積立金, その他の積立金, その他積立金, 法人運営等積立金, 次期繰越活動収支差額, 次期繰越活動収支差額(うち当期活動収支差額), 純資産の部合計, 負債及び純資産の部合計.

平成19年度財産目録

平成20年3月31日現在

第6号様式

(単位:円)

Table with 2 columns: 資産・負債の内訳, 金額. Rows include 1. 資産の部, 1. 流動資産, 現金預金, 普通預金, 未収金, 流動資産合計, 2. 固定資産, (1) 基本財産, 基本財産特定預金, (2) その他固定資産, 建物, 構築物, 機械及び装置, 車輛運搬具, 器具及び備品, 工作物, その他積立預金, 公用車積立預金, その他積立預金, 法人運営等積立預金, 全事協退職年金共済預け金, その他固定資産, 固定資産合計, 資産合計, II. 負債の部, 1. 流動負債, 未払金, 未払金, 預り金, 流動負債合計, 2. 固定負債, 全事協退職年金共済引当金, 固定負債合計, 負債合計, 差引純資産.

脚注 1. 減価償却費の累計額 270,782,595円
2. 平成19年3月31日以前に取得した有形固定資産で、耐用年数到来時においても使用し続けている有形固定資産については、19年度で備忘価格(1円)まで一括償却した。

日帰り観光を終えて

救護施設 いしみね救護園
生活指導員 町田 宗広



去る六月十三日と二十三日の二班に分かれ、読谷村に在る「むら咲むら」と「青い海」の観光を行いました。

好天の中、一班的の二ヶ所を見学。二班の活動範囲の広い利用者は「むら咲むら」と「青い海」の二ヶ所を見学。

「むら咲むら」では、万華鏡や珊瑚の風鈴・三味線工房・世界のバナナ園等を見学したり、乗馬クラブの馬と一緒に記念写真を撮り、思い思いに楽しむ。「青い海」では、塩工場・琉球ガラス工房・世界の珍蝶及び塩博物館等を見学。また、東シナ海を一望する事ができる海沿いの小高い場所に立地しているため、涼しい潮風を肌で感じながら気持ちよく見学し、その後はアイスクリームや冷たい飲み物を飲み、十分リフレッシュする事が出来た一日でした。



施設だより

戸外レク in 浦添大公園

知的障害者更生施設 北嶺学園
生活支援員 中村 礼仁郎

風薫る新緑の季節、肌心地よい風とさんさんと降り注ぐ太陽の下、五月二十日、浦添大公園にて戸外レクを行いました。

浦添大公園には、長い滑り台やブランコ等数多くの遊具もあり、普段はじつとしていたことの多い方が、ブランコを高く高く上手にこぐ姿や、滑り台を滑り、少し驚いた表情等、普段の学園生活では見ることの出来ない活き活きとした表情を見ることが出来ました。私たちの楽しい雰囲気誘われたのか、鳩もやってきて心優しい利用者さんは自分の大事なお菓子を分けてあげ、鳩とのふれあひも楽しんでいました。

一人の体調不良者を出すことなく、多くの笑顔と笑い声の中、楽しい一日を過ごすことが出来ました。



一日ジョイフルデイに参加して

児童養護・知的障害児施設 漲水学園
児童指導員 仲間 勝之

今年も、宮古島市社会福祉協議会主催による「一日ジョイフルデイ」が、五月十七日(土)に実施されました。「ジョイフルデイ」は、こどもの日にちなんだ児童とのふれ合い交流のイベントです。今回は、海を渡って伊良部島観光を行いました。

船内からの素晴らしい景色をながめているうち、瞬く間に島に着き、美しい海岸線がひろがる白鳥岬を散策。レストランでのおいしい昼食の後、午後から、下地島空港を見学しました。飛行機のタッチアンドゴー(パイロットの訓練)に、皆真剣な眼差しを送っていました。

通り池では、その神秘的な風景を眺めながら遊歩道を歩き、渡口の浜では、のんびりと足を海水に浸かったり、砂浜で砂遊びをして自然を満喫しました。この日の貴重な体験を、今後の成長の糧にして欲しいと思います。



マドンナチーム復活

養護・特別養護老人ホーム・八重山厚生園
生活相談員 奥間 安洋



去る六月七日(土)石垣市肥前船競漕大会が石垣漁港で盛況に行われました。

厚生園マドンナチームも五年ぶりに復活。慣れない手つきながらも日夜練習に

励んだ大会出場でした。久方振りの出場に大勢の利用者も一生懸命応援、大いに盛り上がった一時でした。マドンナの満足気な笑顔と、昔と今も変わらずぬ勢気あふれる夏の風物詩「ハリー大会」をじっくり見物され利用者も御満悦な様子でした。今でも日常会話の中でハリーの話題が尽きず思い出深い楽しみとなりました。来年は男子職員も参加したいと意気込みを見せており、早くも待ち遠しくしております。地域の方々や同じテナントの中で応援合戦を繰り広げた他施設の利用者の方々の出会いも又楽しみの一つとしております。

